

岐阜農林事務所の普及活動状況（令和8年8月）

新たな担い手の確保

■いちご（岐阜市） 岐阜市いちご部会 令和7年産いちご販売額5億円を達成

8月4日にホテルパーク（岐阜市）において、令和7年産いちご反省会が開催された。岐阜市いちご部会では、全農岐阜いちご研修所修了生を中心に新規就農者の定着が進み、産地の維持・発展と生産拡大が図られている。その結果、令和7年産いちごは、新規就農者の増加に加え、高単収かつ安定した生産、高単価に支えられ、部会目標である販売額5億円を達成した。

反省会では、主な出荷先市場から販売状況や消費動向について報告が行われたほか、若手生産者で構成する青年部から活動報告が行われた。

青年部からは、市場視察を通じた流通・販売状況の学習や、生産者自らが消費者へPR活動を行った取組について紹介された。

農林事務所では、今後も新規就農者を中心に栽培管理や経営支援を行い、いちご産地のさらなる活性化に向けて関係機関と連携しながら支援を継続していく。

（園芸産地支援第二係）



【青年部の発表】

潜在力をフル活用した生産強化

■にんじん（各務原市） 各務原市にんじん部会 高温対策に取り組む

各務原市では、8月に入り冬にんじんの播種が本格化している。冬にんじんは11月から12月にかけて収穫されるが、近年は播種時期の高温・少雨傾向により、発芽不良や高温障害の発生が課題となっている。このため、高温条件に適応した栽培技術の確立を目的として、各務原市園芸振興会にんじん部会のブランド推進員に任命されている生産者が、耐暑性品種の選定試験や、遮光資材を活用した地温抑制・土壌水分保持による発芽率向上試験などに取り組んでいる。

農林事務所では、生産者およびJAと連携して実証ほを設置し、地温測定や収量・品質調査を実施している。これらの結果を基に技術の効果を検証するとともに、地域の栽培条件に適した高温対策技術の確立を支援していく。



【遮光資材設置】

（地域支援第二係）

■水稻（羽島市） 羽島市水稻種子採種組合現地検討会の開催

優良な水稻種子の安定生産を目的として、羽島市水稻種子採種組合の現地研修会が8月5日および7日に開催された。研修会是小熊地区、足近地区、桑原地区の3地区に分けて実施され、各生産者のほ場を巡回しながら、幼穂形成の進み具合、葉色の状態等について確認した。その結果、各地区とも生育ステージや葉色に大きな差は見られず、全体として良好な生育状況であることを関係者間で共有した。

農林事務所からは、今後の栽培管理において重要となる穂肥の散布時期と施用量について説明を行った。また、水管理や病害虫の発生状況に応じた適切な防除など、今後の栽培管理のポイントについて指導を行った。生産者からは生育状況に関する質問が寄せられ、活発な意見交換が行われた。



【現地検討会】

（地域支援第二係）

■トマト（本巣市） 糸貫トマト振興会 高温対策研修会の開催

岐阜地域では、7月下旬から8月上旬にかけてトマトの定植が行われている。近年は夏季の高温により、着花不良や裂果、着色不良果などの高温障害の発生が問題となっているため、8月27日に糸貫トマト振興会の生産者9名を対象として、高温対策をテーマとした研修会を開催した。

研修会では、農業技術センターから夏場の給液管理のポイントやBS資材に関する試験結果について説明が行われたほか、資材メーカーから高温対策資材に関する情報提供が行われた。

また、農林事務所からは、現在実証を進めている遮熱塗布剤の効果や、近年発生が増加しているコナジラミの防除対策について説明を行った。その後、各生産者が実施している高温対策や栽培管理上の工夫について活発な意見交換が行われ、情報共有が図られた。

今後も、農林事務所として高温対策に関する技術実証や関係機関と連携した勉強会を開催し、高品質なトマト生産を支援していく。



【研修会の様子】

（園芸産地支援第一係）

■かき（本巣市） 糸柿振興会 果樹カメムシ類の緊急防除を実施

岐阜農林事務所では、4月から毎週予察灯等を活用し、主要害虫の発生調査を実施している。

果樹カメムシ類については、8月10日に予察灯での誘殺数の増加が確認されたほか、柿園への飛来および被害が確認されたことから、生産者に対して緊急防除を呼びかけた。糸柿振興会では、LINEを活用した情報提供を行っており、呼びかけ後、速やかに防除が実施された。

農林事務所では、引き続き害虫調査を実施するとともに、被害状況の把握と速やかな情報提供に努め、カキの安定生産と品質確保を支援していく。



【LINEの活用】

（園芸産地支援第二係）